

論文審査の要旨(甲)

| | |
|---|---------------------------------------|
| 申請者領域・分野 氏名 | 総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 氏名 木村 緑 |
| 指導教授氏名 | 若林 孝一 |
| 論文審査担当者 | 主 査 中村和彦 副 査 大熊洋揮 副 査 蔵田潔 |
| <p>(論文題目) 一般住民における認知機能と社会生活活動との関連—岩木健康増進プロジェクトでの検討—Relationship between cognitive function and social life activities in the general population – consideration by the Iwaki Health Promotion Project –</p> | |
| <p>(論文審査の要旨)</p> <p>【背景と目的】 認知症の発症因子には、食事や運動といった特定あるいは単一の活動との関連についての報告がほとんどであり、毎日の社会的な生活活動全般との関連については明らかになっていない。本研究では岩木健康増進プロジェクトの参加者を対象に、社会生活活動として対人交流と生活時間に着目しこれらと認知機能との関連を検討した。</p> <p>【対象と方法】 対象は 2015 年度「岩木健康増進プロジェクト」に参加した 1,113 名の中から、がん、脳卒中、心筋梗塞、狭心症、精神疾患、日本語版 Mini Mental State Examination (以下 MMSE) 24 点未満、データ欠損ありの者を除いた 50 歳以上の 563 名 (男性 192 名、女性 371 名) であった。対象者を男女別とし、50 歳～64 歳 (以下中年群)、65 歳以上 (以下高齢者群) の 2 群に分けて評価を行った。</p> <p>【結果】 MMSE と関連のあった因子は、男性では中年群で「スポーツ」 ($\beta=0.20, p=0.04$) 「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」 ($\beta=0.24, p=0.01$)、「休養・くつろぎ」 ($\beta=0.20, p=0.04$) が MMSE と正の相関を示したが高齢者群では関連する因子はなかった。女性では中年群で「育児」 ($\beta=0.15, p=0.03$) が MMSE と正の相関を示し「食事」 ($\beta=-0.24, p<0.01$)、「睡眠」 ($\beta=-0.16, p=0.02$) は負の相関を示した。高齢者群では「月に 1 回以上会う家族・親戚」 ($\beta=0.16, p=0.04$) と MMSE が正の相関を示した。</p> <p>【考察】 これらの結果から、認知機能の維持に向けた取り組みは、性差や年代を考慮して進めていく必要性和、その人の一日の社会的な生活活動のありかたを振り返り、生活背景や個別性を考慮した社会生活活動のしかたを提案していく必要性を明らかにした研究で学位授与に値する。</p> | |
| 公表雑誌等名 | 弘前医学 2018 年第 68 巻 2-4 号掲載予定 |